

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会
(事務局：全国私立学校教職員組合)
No.43 2020年12月12日(土)

岩手：昨年数を超過した県向け請願 県議会が採択!!

岩手から朗報が届きました。6校の高校生が集まり開催した私学助成学習会を起点にしての高校生の活躍。岩手私教連としての声かけ、日報体制などの奮闘で、昨年数を超過した集約数に到達して「県向け請願」を県議会に提出できました。その請願が8日の県議会で採択されました。

12/1(火)岩手県議会議長へ

署名67,108筆提出

12月1日(火)、盛岡誠桜・一関修紅・一関学院高校の各校PTA会長をはじめ、県内私学教職員ら12名が参加し、昨年度の66,649筆を超える請願署名を関根敏伸岩手県議会議長に提出しました。(6万筆を超える署名提出は、2014年度以降7年連続です。)



当日は、参加者を代表して佐藤雅昭・一関学院PTA会長が請願書を提出。続いて山本私学助成をすすめる岩手の会事務局長が「今年度からの国と県の私学助成金制度のおかげで、経済的理由で退学した生徒が0人であったことを感謝したい。しかし、この

状況になっても岩手県の授業料滞納率は都道府県ワースト1、2位であり、この滞納率の低くするために一層の補助をお願いしたい。6万筆のPTA保護者の思いをくみ取っていただきたい。」と要請しました。

関根議長は「7項目を受けて、県の公教育を支えてくれている私学に対する重要な課題であると感じている。6万筆の思いを受け、その思いを踏まえて県議会でもしっかりと対応させていただきたい。7000名近くの私立の生徒さんがいるので、(学校の)財政的な基盤の安定、財政的な負担の軽減は大きな課題となっているので県議会に打診していきたい。」と答えられました。

その後、(限られた短い時間でしたが)後藤敏信・盛岡誠桜PTA会長、小野寺敬・一関修紅PTA会長など参加者から改めて私学助成拡充の要請を行い、請願行動を終えました。

→12/8(火)、県議会で請願7項目すべてが採択されました!

岩手県議会 議長 関根 敏伸 様

2020年12月1日

請願趣旨

2014年度からの私学助成の拡充とともに私立高校への就学支援金を拡充され、さらに、2020年度からは今年度県議会まで国の私学助成金が削減されることとなり、私立高校に通っている保護者の学費負担は非常に増加されることとなりました。この際、岩手県でも削減していた県民協会の授業料助成も、2014年度から削減されることとなり、県民協会の授業料助成も削減することとなりました。今年度からは2014年度と同様に削減され、さらに削減されることとなりました。こうした一歩の削減はありますが、それでも多くの私立学校に対しては授業料滞納率が高く、授業料滞納率の上昇も懸念されています。

県内では高校生の約30パーセント、およそ7万人が私立高校に通っています。私立高校は公教育として、教育の権利に基づいて教育を受ける権利を保障し、県内私立教育者に適した教育を求めたいです。また、保護者の負担の軽減も望みます。私で教育を受ける権利を保障していただくには、授業料滞納率を削減することも、教育費の減額・削減も必要です。また、私立高校においても安心して通学できるような環境を整えることが私学助成の要請です。

以上のことから下記の事項について請願します。

請願事項

1. 私立高校（岩手県、小・中学校、高校、専門学校、専修学校）に対する授業料滞納率の削減を要請してください。
2. 中・高の子どもたちが安心して私立高校で学ぶよう、授業料滞納率の削減および入学金助成の拡充を要請してください。
3. 国・県学費助成制度の上乗せする国の私立高等学校授業料滞納率削減を要請してください。
4. 私立高校の授業料滞納率に対する補助制度を拡充してください。
5. 私立高校の授業料滞納率を削減・拡大してください。
6. 岩手県を広く含む岩手県内すべての私立高等学校の授業料滞納率について削減してください。
7. 国に対して、私立高校に対する授業料滞納率の削減、授業料滞納率の削減および私立高等学校の授業料滞納率の削減を要請し、国が私立高等学校の授業料滞納率を削減するよう要請してください。

以上

【紹介議員】

名須川 晋
石本 茂光

高田 一郎
水村 幸弘
上原 康樹

紹介議員も、昨年度の3名を上回る5名の議員が応諾。